

ほっかいどうの社会保障

2014年8月28日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

白老町立病院は「存続」！ 住民の運動、病院職員の奮闘が町を動かす

8月26日、白老町の戸田安彦町長は、町議会全員協議会で、廃止を検討してきた白老町立病院について、「**町民の健康を支え、安心して暮らせるために、必要な公的医療機関として町立病院を継続します**」と表明しました。



私たちの目標は
「患者さんに信頼され、
笑顔と思いやりのある病院」づくりです。

昨年6月、町の財政的理由から、町立病院の廃止が提案されたのを受け、二人の町民から始まった存続を求める運動は、4000筆（有権者の1/4）以上の署名をアツめ、町立病院を守る友の会に発展し、活動しています（会員は1000人を越えています）。

これを受け、院長をはじめ病院職員も改善にとりくみ、2013年度は、計画と比べ、入院、外来患者数が上回り、経常収支や純損益も改善しました。2014年度はさらに患者数増の計画を立て、順調に推移しています。

町長は、病院の経営見直し、他の経営形態や規模も検討し、現状規模での存続を判断したと、表明しました。

町立病院を守る友の会の山本会長は「本当に良かったです。でも病院改築など不安もあります」と話します。同会は、9月2日、町長と懇談を予定しています。

白老町立国民健康保険病院の方向性【概要版】より

【政策判断結論】	白老町総合計画に掲げた「 町民の健康を支え、安心して暮らせるために 」必要な公的医療機関として町立病院の経営を維持します。なお、老朽化の著しい現病院施設の改築については、今後「 町立病院改築基本方針 」を策定し、検討していくものであります。
【政策判断理由】	<ul style="list-style-type: none"> ●経営改善計画に概ね計画どおりに進捗しており、経営改善計画の目標値に掲げた繰出金縮減を図ることができ今後も計画に沿った経営が可能と判断します。 ●白老町に必要な医療について、高齢化率の上昇や交流人口の増加予測に伴う救急医療や安心して子育てを行うための小児医療、保健・医療・福祉施策の3連携の推進に伴う公衆衛生活動を実施する機能が不可欠であります。 ●地域包括ケアシステムの構築における在宅医療の提供や医療機能分化による高度医療機関との連携、地域における「かかりつけ医」機能の確保が必要となるなど、現在の町立病院と同等の機能を有する病院が必要と判断します。 ●必要な医療を実現するため、民間移譲など他の経営形態に移譲することや地方公営企業法の全部適用などを検討してきたが、町の基本姿勢として地域医療の確保が担保されないことなどから、現状で経営形態を変更することは困難です。

札幌市、岩見沢市でも、国保料の引き下げを求める署名はじまる

高すぎる国保料（税）の引き下げを求める取り組みについて、先日、北見市、江別市、函館市の取り組みを紹介しましたが、札幌市や岩見沢市でも取り組みが始まりました。

札幌市 8月28日、「高すぎる国保料の引き下げを！意思統一集会」を行い、12月議会に向けて、国保加入世帯の1割に当たる3万筆以上の陳情署名を集めて提出することを確認しました。

岩見沢市 8月24日、「岩見沢市の国保をよくする会」を発足しました。12月議会に向けて、1万筆以上の署名を集めて提出することを確認しました（岩見沢市の人口は約8万7千人です）。

